

特集 協同組合が結ぶ「つながり」の今

04

若者たちの「つながり」

～大学生協学生委員会の今

奥田 祐樹 (全国大学生生活協同組合連合会京滋・奈良ブロック 学生副委員長)



前列右側より二人目が奥田祐樹氏

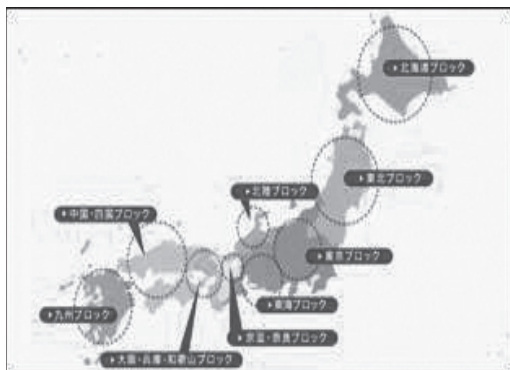
はじめに

私の幼いころは勉強や塾が大嫌いで「親にどれだけ仮病をうまくつけるか」を考えていました。でも学校は大好きでした。仲のいい友達や支えてくれる先生方がいたからです。「～くんと遊びたいから学校行く!」「～先生と勉強する約束あるから学校行く!」「～ちゃんに会いたいから学校行く!」。理由は様々ですが、学校ではたくさんの人と「つながり」がありました。中学や高校の受験期には先生や仲間との「つながり」のおかげで、勉強を頑張ることができました。「つながり」があったからこそ、学校での充実した日々を過ごすことができました。その考え方は今も変わりません。

大学生の多くは大学生活が始まる直前、不安や希望でいっぱいです。私も四年前は「友達できるかな?」「勉強ついていけるかな?」「いろんな経験したいな～」「先輩とうまく付き合っていけるかな～」と心配でいっぱいでした。大学生協はいつも私のそばにいてくれました。4年間通している「つながり」をつくるきっかけを与えてくれたように思います。本稿は、大学生協の具体的な取り組みについて、特に「つながり」に着目して紹介します。

大学生協とは

大学生協とは、大学の学生と教職員が組合員となり組織している生協です。大学の福利厚生施設の役割を担っており、食堂・書籍部・購買部などの運営をしています。また、学生総合共済・旅行・チケットセンターなど、学生生活に必要なサービスの提供も幅広く行っています。総(代)会や理事会などの場面では、学生同士や学生と教職員が議論しており、総代や理事たちは「より充実した大学生活」のため、自分たちに何が必要で、どんな大学生活を過ごしたいのかを真剣に考えていま



す。また、大学生協は「協同」「協力」「自立」「参加」という4つの使命を掲げています。その考えのもとに各地の大学生協では学生の自立と成長を促していくために様々な取り組みをしています。

全国大学生協連合会には220(2013年9月現在)の大学生協(9事業連合および6インターカレッジコープを含む)が加盟しています。また、京都・滋賀・奈良地域支部としての『京滋・奈良ブロック』は20の会員生協で組織されています。

京滋・奈良ブロックの会員生協	
京都大学生協	滋賀大学大津地区生協
同志社生協	滋賀大学彦根地区生協
立命館生協	滋賀県立大学生協
京都府立医科大学 ・京都府立大学生協	滋賀医科大学生協
龍谷大学生協	奈良女子大学生協
京都教育大学生協	奈良教育大学生協
京都工芸繊維大学生協	奈良県立大学生協
京都橘学園生協	奈良工業 高等専門学校生協
池坊学園生協	大阪樟蔭女子大学生協
京都経済短期大学生協	大学生協京都事業連合

全国のほとんどの大学生協には生協学生委員会(学生による組織委員会)が存在しています。生協学生委員会とは組合員である学生が自主的に集まり、組合員の中心となって組合員活動を行っている委員会です。

す。全国には1万人以上の生協学生委員が存在し、京滋・奈良ブロックだけでも1000人以上の学生委員が存在しています。(*「大学生協学生委員会実態調査」*より)

生協学生委員会はより充実した大学生活を目指し、学生である自分たちのニーズや願いを大切に活動しています。例えば、学生目線で店舗の商品やサービスで何が必要かを議論し交流する活動、新入生同士の仲間づくりを手助けする活動、安心・安全で健康な大学生活を送るための活動、平和活動、国際交流活動、環境活動、自分の将来について考えあうキャリア形成活動など、様々な取り組みをしています。

このように多くの取り組みを生協活動として行うことができるのは、なぜか。それは、「学生の現状を理解しているのは学生自身である」という考えのもとに生協学生委員会が生協組織の中で位置づけられているからです。ほとんどの学生は大学を4年間で卒業し、毎年新しい学生を迎え入れます。社会の情勢が変化し続けるのと同様に、学生の実態もたった1年間のあいだに大きく変化します。その変化に対応し、生協が学生組合員の信頼を得るためには「大学生の今」を常にとらえ続けなければいけません。生協学生委員会は大学生協にとって欠かすことのできない存在となっています。

大学生の今

大学生を取り巻く現状が毎年変化すると同時に学生のニーズや願いも変化し、組合員からは事業内容の充実や組合員活動の充実が求められています。そのため、大学生協では毎年、全国規模で『学生生活実態調査』を行っています。今年でこの調査も49回目となりました。以下の項目はこの調査をもとに、まとめられており、2015年

度のブロック方針策定にも活用されています。

(1) 組合員の生活

京滋・奈良ブロックの会員生協で実施した学生生活実態調査(2013年10月～11月)によると、学生組合員の収入額は、自宅生・下宿生ともに2009年度から少し増加しています。しかし、食費に着目してみると、仕送りが14万円以上であっても1日平均の食費が1000円程度に留まり、仕送りがない学生に至っては1日800円を下回っています。また書籍や勉学費にかける金額の割合は減少傾向にあり、本来費やすべき“学生生活”や“勉学”にかかる費用の割合を意識的に減らしていることが考えられます。

(2) 組合員の学び

大学生活の重点は「勉強第一」を挙げる学部生組合員が最も多く、「豊かな人間関係」は1995年を境に下がり続け、今回の調査結果によって「サークル第一」に抜かれる形となりました。また、2016年度卒の就職活動から、選考スケジュールが大きく変わり、就職活動に「とても不安に感じている」「不安に感じている」と回答する学生は全体で約78%にものぼっています。このことは組合員のキャリア形成や学びに大きく影響を与えていることが考えられます。

「つながり」を生む取り組み

大学生協では「つながり」を生む取り組みが数多く行われています。その中でも、特徴的な「つながり」を具体的な事例とともに紹介します。

「生産者」×「組合員」

京滋・奈良ブロックの大学生協は京都生協など地域生協とともに産直交流を行っています。特に生協牛乳は、鳥取県の大山乳業農協から提供されており、生産者と消費

者を直接結ぶ「産直の牛乳」は1970年代から始まり、40年の歴史をもって取り組まれています。どのように乳牛が育てられ、どのように処理加工されて「大学生協牛乳」になるのか。酪農の現状や酪農家（大山乳業農協）のこだわり、歴史などを知る『大山乳業農協訪問研修』を開催しています。学生、教職員、生協職員の参加が多く、大山乳業農協と鳥取県畜産農協に訪問し、多くの気付きと学びを得ることができます。以下に『大山訪問研修』の取り組みを紹介します。



産直牛乳 200ml

(1) 大山乳業農協と鳥取県畜産農協訪問

大山乳業農協では、私たちが店舗などでよく目にしている大山牛乳やヨーグルトなどの製造工程を見学します。見学後は、職員の方々から、大山乳業農協の歴史や産直活動についてお話をさせていただきます。また、鳥取県の酪農や大山牛乳の特徴を学ぶことができ、生協が扱っている大山や鳥取県の商品の良さを実感することができました。参加者は実際に生産者の声を生で聞き、その思いを知ること、「品質表示をよく見る」「生産者の顔がよくわかるものを買う」といった意識を持つことができたようです。



生産者との交流会

また、鳥取県畜産農協を訪問し作業現場を見学しました。その後、鳥取県畜産農協や大山乳業農協など、産直に関わる仕事をしておられる方々にお話を聞き、交流する時間が設けられます。

参加者は、工場見学や訪問研修に関わる人たちとの交流を通して、大学の店舗で販売されている牛乳などの商品に込められた生産者の熱い想いを、しっかり学ぶことができたようです。生産者が目指す『産直＝産地直結』が、まさにこの研修で体现することができました。厳しい受験競争のなかで社会との接点を十分持ち得なかった大学生にとって、生産現場での交流と知識の習得は貴重な経験です。また生産者にとっても若い世代との交流によって「やりがい」を実感する場として機能しているようです。

「新生」×「新生」 「保護者」×「大学生協」

大学入学前では、新生は多くの不安や悩みを抱えています。特に経済面や人間関係の面で悩んでいる場合が多いです。これらの悩みは保護者も同様に抱えている場合が多く、特に経済面に関しては初めて大学入学の準備をする保護者はあわててしまいます。

大学生協ではそういった不安や悩みを少しでも減らそうと、様々な取り組みが行われています。新生同士や、保護者と大学生協がそれぞれに「つながり」を生むことのできる取り組みです。以下に大学生協で行われている取り組みを紹介します

(1) 新生歓迎企画

生協学生委員会が中心となって、友達づくりのきっかけとなる企画を開催しています。大学生協によってはゲームや交流会だけでなく、京都の町を散策する企画や、同

じマンションに住む下宿生同士で集まる企画もあります。仲間づくりや友達づくりは大学生活の充実のみならず自身の成長にとっても必要なことのひとつです。大学だけではカバーしきれない部分も大学生協が補っており、入学前から友達づくりができることも大学生協の特徴のひとつです。また、企画運営をしている先輩学生と仲良くなるきっかけでもあります。これをきっかけに先輩にあこがれて、生協学生委員会に入る新生も多いようです。



新生生ウエルカムパーティー (龍谷大学生協)

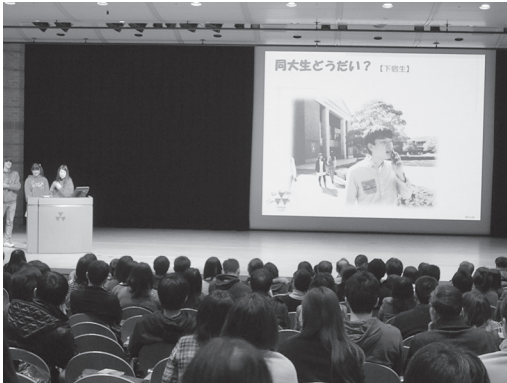


下宿生交流会 (滋賀県立大学生協)

(2) 保護者説明会、大学生生活説明会

この取り組みは主に入学前の準備をしている新生やその保護者を対象に行っています。大学生活の様子や授業の様子、大学生活にかかる費用や下宿生にかかる費用などを在学学生が実体験をもとに伝えています。また、大学生活で必要になるものやサービス、学生総合共済なども提案しています。

保護者や新入生がこれらの説明会に参加することで、入学後、大学生協への「つながり」が強化されています。



保護者説明会（同志社生協）



なんでも相談会（奈良教育大学生協）

「大学教員」×「学生」

京都大学生協では、^{クロス}「X-academy」という取り組みが行われました。学生と大学教員と生協職員とが一体となり、1年間を通じて新入生の知的好奇心に応える企画です。この取り組みは大学教員と学生の「つながり」を生むきっかけになりました。以下その背景と取り組み概要を紹介します。

（１）背景

入学前後の時期には多くの学生が「専門書をたくさん読んでみたい」、「留学したい」、「自分でいろいろな勉強をしたい」といった高いモチベーションをもっていま

す。ところが実際に授業が始まると勉学の目的が単位を取ることに移ってしまい、自分の興味があることになかなか専念できずにいるのが現実です。また研究室に行ってみたい、留学してみたいと考えていても具体的にどうしたらよいのかわからず、多くの学生が悩んでいるということもわかりました。この企画はそういった学生の「大学での勉学をより充実させるためのきっかけづくりをしたい」、「教員や先輩など様々な人と出逢いたい」「仲間とともに一緒に学びたい」という願いを受けて、先輩学生の発想から生まれました。

（２）概要

月に１度、世界や異分野、研究所などとの「出逢い」をテーマに、講演会や座談会、ワークショップを行い、留学のきっかけづくりや異分野との出逢いなどを体験してもらいます。各回にはそのテーマにあった先生を呼び、企画後半においては先生方を交えた夕食懇親会を行っています。教員とのより身近な交流ができる、仲間と一緒に学ぶことができるなどが大きなポイントです。また教員が学生に読んでもらいたい書籍などを紹介したりもしています。

（３）内容

全７回の企画を予定しており、新入生には４月に参加費を頂いています。入学時に申込者を募り１８０名近い申し込みがありました。申込者には書籍の割引券を配布しており、本を読んで積極的に学ぶことを促しています。

＜第１回「大学との出逢い」＞

４名の教員をお招きし、大学で学ぶとはどういうことなのか？新入生としてすべきことは何なのか？などのテーマについて京大教員によるパネルディスカッションを行いました。

＜第２回「世界との出逢い」＞

教員には英語の学び方や、留学の利点などのテーマについて講演をおこなっていただきました。この回には京都大学の留学生にも多数参加していただいて、参加者と英語で交流を行いました。

<第3回「専門書との出会い」>

さまざまな分野の教員をお招きし、研究のきっかけとなった専門書や研究の上で思い出深い本などを紹介して頂きました。1回生は各テーブル数人ずつに別れ質問するなど、より身近な交流ができました。

<第4回企画「異分野との出会い」>

異分野交流をテーマに先生から提示された一つのテーマ（問い）に対して様々な視点から考えるワークショップを行いました。



X-academy 第1回講演（京大生協）

「生協職員」×「学生」

大学生協で中心となって業務やサービスを提供しているのは生協職員です。また、すでに記述してある通り、生協学生委員会も欠かすことのできない存在です。様々な業務やサービス、取り組みは「生協職員」と「学生」が互いに協力することで、より充実したものになります。特に奈良教育大学生協では食堂の混雑緩和に向けて「生協職員」「生協学生委員会」「パートスタッフ」全員でプロジェクトチームを結成しました。また、同志社生協では新学期に向けて、『ALL 同志社』というテーマを掲げています。職員と学生の距離が近くなること

で、新入生に対して充実したサポートを行うことができます。そういった協力関係の中、学生は職員と触れ合う機会が多くなり、成長につながっています。



生協専務と学生委員会で合宿（同志社生協）

「学生委員」×「学生委員」

京滋・奈良ブロックでは、すべての生協学生委員を対象に『春のセミナー』『秋のセミナー』を開催しました。生協学生委員会として「大学生協とはなにか」「活動するうえで大切なことは何か」を学び、他大学の生協学生委員と交流する時間を設けました。また、生協学生委員長同士で京滋・奈良ブロックのこれからを議論する『委員長会議』を定期的に行いました。他にも、本来なら「つながり」を持てるはずもない他大学の活動を学び、交流する『地域学生委員会活動交流会』なども開催しました。これらブロックの取り組みは、生協学生委員会同士で学びあい、「つながり」をつくるきっかけになりました。



春のセミナー（京・滋・奈良ブロック）

「平和」×「学生」

大学生協は組合員の平和で安全な生活を守るために、社会に目を向けた平和活動に取り組み、「平和な社会と明るい未来を創造する組合員を増やす」ことを大切にしています。その平和活動を具体化したもののひとつとしてPeace Now!を開催しています。PeaceNow!では、過去の戦争についてはもちろんのこと現代の社会や世界情勢について学び、より良い生活と平和のために何ができるのかを自らの頭で考え、社会に目を向けて行動を起せるきっかけの場としています。特に“Peace Now! 広島”、“Peace Now! 長崎”、“Peace Now! 沖縄”が毎年開催されています。実際に現地へ足を運びフィールドワークや体験者との交流会、参加者同士の交流会を行い、平和に対する想いを深め、これから自分たちにはどんなactionができるのかを話し合います。また身近なところから過去の歴史を学ぶため、“Peace Now 舞鶴”や“Peace Now 奈良”



グループセッションの様子 (PeaceNow! 沖縄)



参加者全体写真 (PeaceNow! 沖縄)

などもおこなっています。大学生協のこれらの平和活動は、平和と学生、過去と未来を「つなぐ」役割を果たしています。

大学生協の役割と「つながり」

世の中にはいろんな「つながり」があります。「つながり」は社会を明るくし、人を成長させることのできるパワーを持っています。人にとって「つながり」の経験や、「つながり」そのものは一生ものの宝なのではないでしょうか。

学生時代は社会に出る一歩手前の大切な準備期間です。未来に胸を弾ませ、大きく成長しようとする学生には、無限大の可能性が秘められているのではないのでしょうか。ならば、大学生協は、学生のもつ無限大の可能性をどれだけ引き出せるのか、そのためにどのようなサポートが必要なのか、大切な役割を持っているはずです。

そんな大学生協の役割は学生の日々の暮らしをサポートするだけではありません。学生の自立と成長を促し、社会に巣立っていくのをそばで見守る、いわばお父さん、お母さんのような存在です。また、大学生協は学生と一緒に大学教授や大学を巻き込んで、社会に対して訴えかける、発信することができる仲間のような存在でもあると思います。

未来の社会を担う学生を育て、様々な「つながりの場」を提供できるのは、大学生協の役割であり、大学生協に求められる姿のひとつなのではないでしょうか。

これからも学生を取り巻く実態は変化し続けます。そんな中で、大学生協として「つながり」の大切さを忘れることなく、明るい未来に向けて想いをリレーし続けていくことが大切だと私は思います。